
夕暮れソング

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夕暮れソング

【Nコード】

N3989B

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

俺の唄にたりないもの。それを教えてくれたのは、見ず知らずの女の人だった。

あー、こんな世界にも太陽が、昇るときがくるってこと
それって、あたりまえのことだけど

昨日の夜に勢いに任せて作った俺の新曲は駅前のロータリーを行
く人を、結局数人しかとめることができなかった。訴えたいこの世
のだらけきった姿とだらけきった自分を歌った唄。だけど、中身な
んてほんとはからっぽだから、幸せなカップルやら、家路を急ぐサ
ラリーマンの頭に俺の唄は響かない。唯一届くとするなら暇をもて
あます学生くらいなものだ。

それでもそのわずかのオーディエンスの乾いた拍手に俺は笑顔に
なる。ほんの一部でも俺の声と演奏を、ちゃんと聴いてくれる人が
居るんだと思うと、ちよつと、安心できた。ギターを辞めようと思
ったとき、バンドを辞めたとき、いろいろな選択がそういうときに
は一気に頭にフラッシュバックしてきて、ああ、俺はここにいるな、
と思うこともある。

上京して三年。ガスに覆われた空はもう見慣れた。歌うのはいつ
も夕方だから、ギターをケースにしまう俺の背中には黄色いひかり
が射している。暖かなひかり。地元を思い出しそうになる、淡い太
陽。

「あの、もう終わりなんですか？」

下を向いていた俺のつむじに言葉が届く。小さな声だけど確かにそ
う聞こえて、確かにそう聞こえたけど俺に言ってるか心配になった。
この駅で演奏を始めてもう二年になるけど、一度だってそんなこと
を言われたことがなかったからだ。数回、褒められたことはあつた
けど、それは初めてだった。それで、俺は言ってしまった。

「え？俺が？」

「ええ？それ以外にだれが？」

顔を上げると、小柄のOL風の女の人だけがそこに立っていて、さつきまで聴いてくれていたほかの人たちはどこかへ居なくなっていた。女はきよろきよろと困った顔をして辺りを見回している。

「俺しか、居ないっすね」

俺も一緒になつてきよろきよろしてみるも、目の前にいる女の人の声が聞こえる範囲に同じようにギターを担いでいる人は居なかった。俺はギターをしまいあぐねて、片手で持ったまま。

「へへへ、君ってやっぱ面白い人ね」

「はい？」

よっぽど面白いのはそっちのほうだ、とは言わないでおいた。なんとなくだけど、本気で怒られてしまいそうな気がしたからだ。「あんな変なこと歌ってー！」なんて言われたら言い返す言葉もない。

「それで、どっち？弾いてくれる？」

まじめな顔だった。夕日を反射してブラウンになった髪が凜と揺れる。俺は、なんか、断れない。

「いいけど…じゃあ、俺が始めて作った唄、弾きます」

「やった、ありがとう！」

とろけそうだな、唇。そんなこと思っていたら出だしをミスしそうになった。

彼女は俺のギターのメロディにのせて手拍子をくれる。すごく無邪気な笑顔。当時の自分が書いた詩が唐突に恥ずかしくもなったけど、なんとか歌った。

「世界は僕らに関係なくて、べたべたでありふれた日常が、僕らの周りを覆い尽くして。それでも言える好きってコトバ」

顔は真っ赤になってただろうと思う。演奏し終わって、なぜか周りには彼女以外にもたくさんの人が俺の唄を聞いていた。ずっと昔、この曲ができてすぐのころよりも圧倒的に多い。

彼女は小さく、俺だけにブイサインをした。

「ありがとうございましたー！」

俺はみんなに言うてから、彼女だけに笑顔を返した。

今度こそ俺はギターをケースにしまおう。「また、来ますね」そう言った彼女とは逆の方向の道へと歩いていく。

ぐっと、首が痛くなるほど上を見上げると、都会の空にちよっとだけ星が浮かんでいた。街に「おやすみ」が近づいている。

あー、こんな世界にも星々が、照らす空があるってこと
それって、あたりまえのことだけだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3989b/>

夕暮れソング

2011年1月27日13時32分発行